



註も読む／註で読む

沼尾 孝志 (国語科)

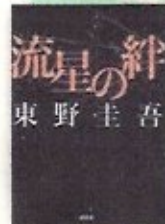
- ・蒲松齡『聊齋志異』(全4巻) 柴田天馬訳、角川文庫
- ・上田秋成『雨月物語』(上・下) 青木真次訳注、講談社学術文庫
- ・ジョージ・オーウェル『一九八四年』高橋和久訳、早川 epi 文庫
- ・トマス・ピンチョン『競売ナンバー49の叫び』志村正雄訳、ちくま文庫



ネットの青空文庫も、確かに若い読者の強い味方ではありますが、今日は紙の本の註から広がる読書の話を楽しみましょう。若い頃に出会えた名著の思い出は尽きませんが、『聊齋志異』は柴田天馬訳で愛読したものです。原文がよいところへ縦横無尽の訳文がまたすばらしく、さらに語註に盛られた逸話や説明が有益でした。註を読み落とすのが惜しいので、註のページにしおきをはさんでおき逐一拾うという習慣が、この頃に身につきました。

原典を再構成してしまうような註の底力を実感させられたのが、『雨月物語』青木正次訳注版です。原著と互角に張り合いのぎを削る訳者の気迫に、手に汗を握りました。

原著者がさりげなく施した原註から、メインのテキストの背後のひそかな別天地に誘われることもありました。村上春樹の話題作のタネ本のひとつとしても知られる、オーウェル『一九八四年』の、ハヤカワ epi 文庫版でp.11にあるたった一つの註を読み落としたばかりに、表層しか知らぬまま読了する読者も少なくないでしょう。英語圏からもう一作、華麗な註の網の目が深読みを果てしなく加速させる『競売ナンバー49の叫び』を挙げて終わります。



「グレート・ギャツビー」 フィッツジェラルド著

私がおすすめする本は、スコット・フィッツジェラルド氏の「グレート・ギャツビー」です。「華麗なる」、「偉大なる」など翻訳者によってタイトルに差異があります。この作品の作者であるフィッツジェラルド氏は、「失われた世代」と呼ばれる時期のヒーローとして崇められました。そしてこの作品はアメリカ文学の代表的なものであるとされています。戦争から帰ってきて、言い知れぬ孤独感を覚えた男性ニックが、高級住宅地ウェストエッグに引っ越すと、ニックの隣人であり、盛大なパーティーを毎晩のように開く男性「ギャツビー氏」に興味を持ちます。ニックはパーティーに多くの人が訪れるのにも関わらず誰もギャツビー氏の素性を知らず、悪い噂ばかり聞くことに疑問を抱き、ギャツビー氏と関わる中で彼の大きな秘密を知ります。とても興味深い作品ですので読んでみてください。

3-1 石原 駿佑

「動物農場」 ジョージ・オーエル著

私が紹介する本はジョージ・オーウェルの「動物農場」です。この本は、農場の動物たちが豚を中心に反乱を起こし、人間を追い出して動物たちだけの理想の楽園を作り上げたものの、結局は農場の中で一番賢い豚たちが独裁政権を作り、動物たちは人間が支配者だった時以上に搾取に苦しむようになってしまったという話です。登場するキャラクターの大半を動物にすることで、権力闘争・独裁政治・過去の事実の改竄・情報操作・支配階級の被支配階級に対する搾取・法律の解釈の変更によって当初の理念と真逆の政策が行われる過程等がとてつもなく分かりやすく描かれています。この本は1945年に刊行され、全体主義を痛烈に批判した本ですが、独裁政権・憲法の解釈・過去の認識などの問題は現代の社会においても依然として存在しており、全く古さを感じさせません。私はこの本を社会のことを考えるきっかけとなるとてもいい材料だと考えています。ちょっと難しめの本に挑戦してみたい。そんな方には是非お勧めの本です。

3-1 中野 零士

「ある閑さされた雪の山荘で」 東野 圭吾著

私は、メジャーな作品ですが、この本を紹介します。私がはじめて東野圭吾さんの作品を読んだ本でもあります。簡単な内容としては、あるオーディションに合格した男女7人の山荘での物語です。俳優志望の彼らは、舞台稽古の目的で山荘に呼ばれ、そこで次々と悲劇が彼らを襲っていきます。全員役者ということもあって、真実なのか、はたまた芝居なのか、といった疑惑も読者を惹きつけます。

話は変わりますが、私は演劇部に所属しています。「演じる」ことは新たな自分を生み出してくれます。ですから、彼らの些細な変貌ぶりがとても面白く感じるので。だから、あなたも演劇部に！

最後に明かされる計画に、きっとあなたも驚愕することでしょう。少しでも興味を持ってくれた人は、是非手に取ってみてください。

3-1 町田 雄大

(本の紹介は裏面に続く)

「シアター！」 有川 浩 著

この作品は「シアターフラッグ」という小劇団を舞台にしたものです。しかし、ただの劇団ではありません。突然 300 万円もの負債を抱え込んでしまい解散の危機に陥った「シアターフラッグ」。劇団員は主宰である春川巧を含め、たった 10 人ほどになってしまいました。巧は兄である司に泣きつきます。しかし司は金を貸すにあたって条件を出します。「2年間で劇団の収益からこの300万円を返せ。できない場合は劇団を潰せ。」果たして彼らの未来は…

「シアター！」は有川作品にしては珍しく、恋愛よりも友情や兄弟関係にスポットライトが当てられています。また演劇といっても個性的な劇団員がドタバタしていることのほうが多いので「演劇なんて知らないよ」なんて人でも大丈夫です。

現在、図書室には「シアター！」「シアター！2」の2冊が置いてあります。文体もとても読みやすいので普段から読書する人もしない人も是非、読んでみて下さい。

3-2 羽根田 康平